

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	薬理学 (Basic Pharmacology)		
ナンバリングコード	S20110	大分類 / 難易度 科目分野	保健医療学科 / 標準レベル コース共通
単位数	1	配当学年 / 開講期	1年 / 後期
必修・選択区分	必修 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	S001051	クラス名	-
担当教員名	森 一生		
履修上の注意、履修条件	パソコンを持参する		
教科書	薬理学 第15版 疾病のなりたちと回復の促進(吉岡充弘ほか、医学書院、2022年)		
参考文献及び指定図書	教科書に準拠した例題、解答例より成る副教材を作成し、配布する予定である。		
関連科目			

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【ディプロマ・ポリシー1】	薬物療法の対象となる患者の人権を尊重し、生活の質の向上に寄与できる倫理観を有している。多職種間でのコミュニケーション能力を身に付けている。	20点		
【ディプロマ・ポリシー2】	診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学を医療の場で実践するために必要な薬物療法の知識を修得できている。主要な薬物の作用機作、体内動態、主作用、副作用および相互作用を理解している。	80点		
【ディプロマ・ポリシー3】				
【ディプロマ・ポリシー4】				

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
○成績評価のポイント 期末試験1回を筆記100点満点にて行う。
○学習成果・課題のフィードバック方法 解答と解説を返します。

○基本情報	
授業の目的	薬物の作用機作、体内動態および臨床応用を理解する。併せて多職種連携チーム医療の一員としての役割を自覚し、患者中心の薬物療法に寄与するに足る知識を修得する。
授業の概要	薬物とは疾病の予防、治療、診断を目的とした化学物質を指す。疾病の背景には生理機能の乱れがあり、薬物はそれを是正することによって回復を助ける。現代の薬理学は、薬力学と薬物動態学と、2つの要素より成る。 ○薬力学:薬物の作用が生体内の細胞・分子レベルでどのように発現するのか?薬物受容体、イオンチャネル、標的酵素、およびトランスポーターと薬物との相互作用を概括し、一般的な原則について学ぶ。 ○薬物動態学:薬物の吸収、生体内分布、代謝、排泄など、投与された薬物の生体内での挙動を学ぶ。各々の段階における薬物の働きかけについても理解する。 上記を踏まえて、各臓器別、疾患別に関連した重要な薬剤名を知る。その作用機序、副作用(有害反応)、適正使用についての知識を身に付ける。医療チームにおける多職種連携についても言及
授業の運営方法	(1)授業の形式 「講義形式」 (2)複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3)アクティブ・ラーニング 「該当なし」
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	

○その他

2023年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	薬理学 (Basic Pharmacology) 森 一生	授業コード	S001051
<b>学修内容</b>				
<b>1. 薬力学、薬物動態学の概要</b> 薬力学、薬物動態学の概要。基本的用語。医療チームの役割。				
予習	教科書の内容を予習する。			約2時間
復習	副教材の例題を解く。			約2時間
<b>2. 医薬品の投与方法と適正使用、医薬品に関する法律、医薬品の開発と倫理</b> 医薬品の投与方法と適正使用。医薬品に関する法律。医薬品の開発と倫理。				
予習	教科書の内容を予習する。			約2時間
復習	副教材の例題を解く。			約2時間
<b>3. 抗菌薬(抗感染症薬など)、抗悪性腫瘍薬(抗がん薬など)</b> 抗菌薬(抗感染症薬など)、抗悪性腫瘍薬(抗がん薬など)。				
予習	教科書の内容を予習する。			約2時間
復習	副教材の例題を解く。			約2時間
<b>4. 薬物の作用</b> 免疫および生体防御反応(炎症、痛み、発熱、アレルギー反応など)と、薬物の作用。				
予習	教科書の内容を予習する。			約2時間
復習	副教材の例題を解く。			約2時間
<b>5. 末梢神経活動に作用する薬物</b> 末梢神経活動に作用する薬物。				
予習	教科書の内容を予習する。			約2時間
復習	副教材の例題を解く。			約2時間
<b>6. 脳神経系薬剤(鎮静剤、鎮痛薬、麻酔薬等)として中枢神経活動に作用する薬物</b> 脳神経系薬剤(鎮静剤、鎮痛薬、麻酔薬等)として中枢神経活動に作用する薬物。				
予習	教科書の内容を予習する。			約2時間
復習	副教材の例題を解く。			約2時間
<b>7. 循環器系に作用する薬物(強心薬、心機能亢進薬、血管収縮薬、血管拡張薬)</b> 循環器系に作用する薬物(強心薬、心機能亢進薬、血管収縮薬、血管拡張薬)、利尿薬作用時における無機イオンの挙動。				
予習	教科書の内容を予習する。			約2時間
復習	副教材の例題を解く。			約2時間
<b>8. 呼吸器に作用する薬剤(気管支拡張薬、鎮咳剤など)、消化器、生殖器系に作用する薬物</b> 呼吸器に作用する薬剤(気管支拡張薬、鎮咳剤など)、消化器、生殖器系に作用する薬物。				
予習	教科書の内容を予習する。			約2時間
復習	副教材の例題を解く。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	薬理学 (Basic Pharmacology) 森 一生	授業コード	S001051
<b>学修内容</b>				
<b>9. 期末試験</b>				
予習				
復習				
<b>10.</b>				
予習				
復習				
<b>11.</b>				
予習				
復習				
<b>12.</b>				
予習				
復習				
<b>13.</b>				
予習				
復習				
<b>14.</b>				
予習				
復習				
<b>15.</b>				
予習				
復習				
<b>16.</b>				
予習				
復習				